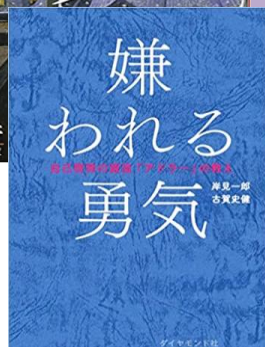
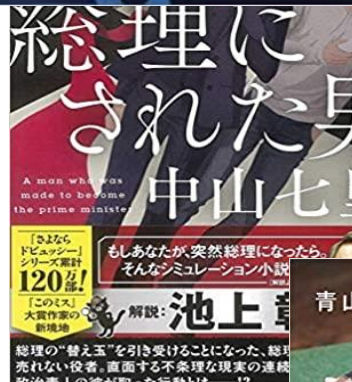


令和4年度 読書寸感文集

浜松工業高等学校 図書委員会



学年		科	寸感文
クラス	1年	C	あと一ヶ月で小惑星が地球に衝突し、人類滅亡する、という話。そうなったときの人間の描写がリアルで、人の欲深さや愛情が強く描かれていて面白かった。息苦しい生活を送る4人の人生が重くなったとき、一番大切なのは家族でも恋人でも友人でもなく、自分が大切だと思ったものを強く愛することだと感じた。自分らしさを大切にしたり、つらいことを認めたりすることは難しいけど、生き方も死に方も自分の個性を大切にしたい。
氏名	*****		
書名	滅びの前のシャングリア		
作者名	凧良ゆう		

学年			科	寸感文
クラス	1年	C		人間は誰もが欠点を持っている。そして、欠点を捨てたいと思う人も多だろう。この本は捨てられた欠点達の物語である。成長する過程で捨てられた欠点達。果たして、欠点は捨てるべきものなのか。欠点を捨てることで人間は限りなく完璧に近づくかもしれない。だからといって、欠点は簡単に捨ててよいのだろうか。欠点があるからこそ人は努力し、高みを目指してゆける。私は、欠点を簡単に捨てるのはあってはならないと思った。
氏名	* * * *			
書名	いなくなれ、群青			
作者名	河野裕			

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	浅田次郎の作品の中でも、この本は傑作だと僕は思う。物語の舞台は戦時中。マッカーサーが残した財宝をテーマに数々の人間ドラマが綿密に描かれている。平和だといわれる現在で、ときにタイムスリップしたかのような臨場感と感情をもてる少ない機会をこの本は僕に与えてくれた。悲惨な時代を生きる少女たちの「私たちが守らなくちゃ」というセリフの意味には、誰しもが涙するだろう。僕はこの本から得られたあの感情を一生大切にしていきたい。
氏名	*****		
書名	日輪の遺産		
作者名	浅田次郎		

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	「先生には、いろんな先生がいたほうがいいんだ。生徒にも、いろんな生徒がいるんだから。」 村内先生は吃音をもつ非常勤の講師。さまざまな学校を転々として、生徒に寄り添う。うまく話せず、大切なことしか言わない先生だからこそ、言葉一つ一つが心に刺さる。SNSが普及し手軽にメッセージを送れる今の時代に、相手に寄り添って伝えることの大切さを教えてくれた一冊。
氏名	* * * *		
書名	青い鳥		
作者名	重松清		

学年		科	寸感文
クラス	1年	A	この本は砂漠とは全く関係ない大学生の物語だ。なぜこの本を読んだのかというと、私が大学生活に憧れているからである。私が想像する大学生は、レポートや課題に追われながらも、遊びや恋愛に勤しむ4年間であり、この本に書かれている生活もそれとほとんど同じであった。ただ、初めは何事にもさめていた主人公が、仲間のために戦うまでの4年間はあまりにも一瞬すぎた。私の高校3年間も、すぐに終わってしまうのかもしれない
氏名	*****		
書名	砂漠		
作者名	伊坂幸太郎		

学年		科	寸感文
クラス	1年	A	幸せとは何か。きっと人によって返ってくる答えは違うだろう。他人が望んでくれる幸せは自分にとっての幸せではないかもしれない。その中で自分の幸せを貫くことの重要性を改めて実感した。文中の言葉に「ひとりのほうがずっと楽に生きられる。それでも、やっぱりひとりとは怖い」という文がある。その文に共感することが多く、自分の中で心の拠り所となっている部分があった。この本はきっとこれからも大切な本となるだろう。
氏名	*****		
書名	流浪の月		
作者名	凧良ゆう		

学年 科			寸感文
クラス	1年	P	「成功した時こそ反省せよ。」 私自身、学校のテストでいい点数を取ることができた教科の学習態度を振り返ったことで、次のテストでも好成績を残すことができた経験があるので、筆者の考えには強く共感した。筆者によると、目標がなぜ達成できたのかははっきりしていれば、成功は偶然ではなく必然になるとのことだ。この本は、これから私が学習や部活動で成功した後の意識を次の成功へ導いてくれるような一冊であった。
氏名	* * * *		
書名	トヨタ流「最強の社員」はこう育つ		
作者名	若松義人		

学年 科			寸感文
クラス	1年	P	この本には5つの物語があり、それぞれの物語の展開が面白く、全く先の展開が想像できませんでした。物語の中には、いくつかの伏線らしきものがありましたが、自分の予想外のつながりだったり、自分では伏線ではないと思っていたものが伏線だったりとな面白い内容でした。また物語もリアリティがあるけれど独特なものだったりと、読み応えのある本でした。ミステリーが好きな人には、とてもおススメできる本です。
氏名	* * * *		
書名	世にも奇妙な君物語		
作者名	朝井リョウ		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ma	将来の就職活動について考えたことはありますか。もし落ちてしまったらと考えると、その後の人生が見えなくなってしまう。しかしなぜそのようなマイナスな考え方に陥ってしまうのでしょうか。それは人生を短くみすぎているからだと思います。この本には「人生とは人文の考え方次第で良悪いを決められるもの」と書かれています。そのことから、人生を長い目で見て失敗を次に活かすことがよき人生を送るためのコツだと思いました。
氏名	* * * *		
書名	心と生き方		
作者名	稲盛和夫		

学年			科	寸感文
クラス	1年	Ma		僕は、この本を読んで会いたくても会えないと言う新しい恋愛を知ることができました。主人公は現代を生きる少年と大正時代を生きる少女です。二人は、時空を超えた文通で知り合い、姿を知らないまま恋をします。大体の恋愛小説は二人で同じ時を過ごし、幸せの日々を送ります。しかしこの小説は、文面でしかお互いに寄りそうことができません。そんな、寂しくて温かい新感覚の恋愛に魅力を感じることができました。
氏名	* * * *			
書名	太正浪漫			
作者名	NAISUMI			

学年		科	寸感文
クラス	1年	Mb	裏切り者は誰だ！の背表紙を見た時からワクワクが止まりませんでした。毎作のように期待を裏切らない恐怖心と素晴らしい友情、そんなところに疑心を抱きながら読み進めました。まさかの展開にびっくりはしましたが、元要塞監獄の囚人という先入観を一瞬で振り払ってくれました。家族愛に飢えていたハリーが深い悲しみから抜け出せたのはもう一人の父親シリウス。愛には色々な形があるけどこんな形も素敵だなと思いました。
氏名	* * * *		
書名	ハリー・ポッターとアズカバンの囚人		
作者名	J.Kローリング		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Mb	
氏名	*****		
書名	ナミヤ雑貨店の奇蹟		
作者名	東野圭吾		

この本を読み終えた時の最初の感想は、自分の行動が思わぬところで人に影響を与えているかもしれないと感じた。この作品の舞台は廃業した今は誰も住んでいない雑貨店である。そこに忍び込んだ三人の少年が不思議な体験をするファンタジーである。設定はファンタジーだが、内容はとても現実味がある作品だ。一章から五章で構成されていて、各章の話は独立しているが全て繋がっている。僕は二章で涙を流さずにはいられなかった。

学年			科	寸感文
クラス	1年	E		この物語は、真田幸村の十人の家臣である十勇士と幸村が、豊臣と徳川の最後の戦い、大坂の陣に挑むことを描いたものである。戦国時代ならではの、忠誠という形の信頼関係に心を撃たれる場面が多く、とてもかっこよかった。また戦略や人の死についても書かれていて、当時の残酷さも知れた。この物語を読んで、信頼関係にはとても魅力的な側面があると知ったので、自分もそんな関係が作れるよう努力したい。
氏名	* * * *			
書名	真田十勇士			
作者名	小前亮			

学年		科	寸感文
クラス	1年	E	僕がこの物語で一番心に残っている場面は最後に社会人になった主人公が、大学生に向けて、大切な人を傷つけてしまったことが、学生時代に多くのことを学んだ出来事だと話した場面です。青春と聞くと、明るい出会いを連想しますが、その裏には悲しい別れや、誰かを傷つけたつらい思い出もあります。そんな暗い出来事は忘れられるものではないので、それを学びとして捉えられるようになりたいです。
氏名	* * * *		
書名	青くて痛くて脆い		
作者名	住野よる		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ei	私がこの怯まず前へという本を読んで最も心に残ったのは常に結果を出し続けるということだ。私は現在陸上の長距離をやっているが、結果を出し続けることがいかに難しいことか身を持って何度も経験した。これは陸上に限ったことではない。勉学においても一度だけの結果では評価されないし全く意味がない。私は、常に結果を出し続けるために酒井監督の言葉であるその一秒を削り出せのもと全力で勝負する人物を目指したい。
氏名	* * * *		
書名	怯まず前へ		
作者名	酒井俊幸		

学年			科	寸感文
クラス	1年	Ei		この本は、大学生の楓と秋好が出会い、理想を追い求める秘密結社サークルを作る話である。ある日、楓と秋好が対立してしまい、楓が秋好を言葉で傷つけようとする。私は楓に共感していたためもっと言ってやればいいと思っていた。しかし何回か読んでいくうちに楓が言った事の酷さに気付いた。そこで、相手を傷つけた後に失敗に気付くことの都合の良さを痛感し、なによりもまず相手を理解しようとする気持ちが大切ということ学んだ。
氏名	* * * *			
書名	青くて痛くて脆い			
作者名	住野よる			

学年		科	寸感文
クラス	1年	R	この本は、竹青荘で暮らしている十人の寛政大学生徒が箱根駅伝を目指すという話が書かれています。主要人物の走は感情的な人物で陸上強豪高校時代に暴力沙汰を起こすほどでした。しかし、ハイジのもと、駅伝を目指すしていく過程でハイジの誠実さを身をもって感じ、人間的に成長していくのが読んでいて面白いです。また、走っている時の自分の感覚が緻密に書かれていて、読み手に走ることの素晴らしさが伝わり魅力的です。
氏名	* * * *		
書名	風が強く吹いている		
作者名	三浦しをん		

学年		科	寸感文
クラス	1年	R	死んで初めて辿り着いた真実。私はこの本を読み、死んでからじゃないと分からないことが多くあるのだなと思いました。死んでから分かる友情、自分の本当の気持ち、家族からの思い。自殺は自分自身のためであっても他人を傷つける行為です。また、自殺は最終的に自分自身を一番苦しめます。私は、自殺という行為を無くすためにも、苦しんでいる人がいたら最後まで寄り添うことのできる、そういう人間になりたいなと思いました。
氏名	*****		
書名	天国までの49日間		
作者名	櫻井千姫		

学年		科	寸感文
クラス	2年	C	この本の物語は、医療特化型のAIにあらゆる人間の健康情報を集積させ苦しんでいる大勢の人を救うという物語です。しかし何者かによってAIのプログラムを書き換えられAIが暴走し始め世界が大変なことになってしまいます。AIのプログラムを変えたのは誰なのか、この先どうなるのか、どんどんこの本の興味深さに引かれてしまうそんな本だと感じました。
氏名	* * * *		
書名	AI崩壊		
作者名	浜口倫太郎		

学年		科	寸感文
クラス	2年	C	この本は、命の尊さを学ぶのにピッタリなものだと思う。病気といういつ、誰がなってもおかしくないものがこんなにも人の命を脅かすのだということといつ自分が病気になるか分からないということに恐怖を感じた。そして山内桜良の孤独と恐怖に耐えながら笑顔で振る舞う姿勢に僕は心を打たれ、感心した。自分に置き換えて考えてみてもこれに耐えるのはとても難しいことだと思う。多くの人にこの本を読んでもらいたいと思う。
氏名	* * * *		
書名	君の脾臓をたべたい		
作者名	住野よる		

学年		科	寸感文
クラス	2年	D	私がこの本を読んだきっかけは母がインターネットでこの本が話題になってることを知り、私におすすめてくれたことです。この本は五つの短い話で構成されていて、どの話も伏線回収がすごく読みごたえがありましたが、一番印象に残った話は一番最初に読んだ「惨者面談」という話です。いろいろなところを疑いながら進めていても予想を上回る結末に鳥肌がたったほどです。大どんでん返しが好きな人にぜひ読んでもらいたいです。
氏名	* * * *		
書名	#真相をお話しします		
作者名	結城真一郎		

学年		科	寸感文
クラス	2年	D	私はこの本を読むといつも自分にとっての幸せとは何かを考えたり、楽しく感じたり、大切な人を大事にしたり、自分のことを大事にしたり、そういった行動や言葉を、自分の意思で選べることで、「幸せとは」と言っていて私は共感しました。でも幸せとはという問いに対してこの答えが全てではないので普段は生活している中で幸せと感じたところを参考に改めて幸せについて考えたいです。
氏名	* * * *		
書名	また、同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

学年		科	寸感文
クラス	2年	A	余命0日。死期が近づくとつれ体が強く光る『発光病』を患った少女。僕は、この本の背表紙にあったこの言葉に惹かれ手に取りました。物語は、病弱な少女が死ぬまでにやりたいことを主人公が代行するというものです。死ぬということと、生きる意味、二人の相反せる自分から見た世界が混ざり物語を生み出している所におもしろさを感じました。主人公が自分と同じ歳のため、どこか同情して読んでしまう部分もあり、とても感動しました。
氏名	* * * *		
書名	君は月夜に光り輝く		
作者名	住野よる		

学年		科	寸感文
クラス	2年	A	この小説は『幸せ』とは何かを問いかけられる作品です。小学生のませた主人公が、それぞれ年齢がバラバラな三人の登場人物やクラスメイトと関わりながら、答えを探す物語です。小説の所々に主人公の口癖である「人生って～みたいなものよ」という言葉と、登場人物たちの幸せの答えが描かれますが、それは人や時間、状況によって変わり、答えは一つではないと、直接的にかかれてはいないものの、作者のメッセージが伝わってくる作品でした。
氏名	*****		
書名	また、同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

学年			科	寸感文
クラス	2年	P		僕はこの本を読んで共感できる点があった。それはタクシーの運転手の温かさだ。何もかも上手くいかない人に、そっと手を差し伸べて寄り添いチャンスを与えてくれる。車を走らせながら人の眠る才能、己の冷静沈着さを蘇らせてくれるまで「親」のようだと感じたからだ。直接物事を教えるのではなく、車に乗るという間接的な行動を取ることによって自分だけが否運ではないと気づかせてくれた運転手に後々感謝すると思った。
氏名	* * * *			
書名	運転者			
作者名	喜多川泰			

学年 科			寸感文
クラス	2年	P	きつと誰しも「やり直したい」ことがある。この作品はそんなことを伝えたいのだと思います。「幸せ」とは何か。この問いは一生考えても答えが出ない大問題だと思います。人それぞれの幸せの形があり一つとして同じ幸せはなく、答え合わせもないものだから自分で見つけることしかできないのだと深く感じました。読み進めていくうちに自分自身の物語に書き変わっているような感覚になる作品でした。
氏名	* * * *		
書名	また、同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ma	私はこの本から親友や家族の大切さについて深く理解することができた。この物語に出てくる生き物はほとんどが猫で、孤独な猫ルドルフが野良猫イッパイアッテナに会い、仲間の重要さを知っていく物語だ。最初はとまどいながらも、仲が深まるごとにつれ他者の暖かみを知るルドルフにとっても共感した。私はあと1年と半月で社会人になる。今まで出会った仲間や家族だけでなく、新たな仲間も一期一会で大切にしていきたいと思った。
氏名	*****		
書名	ルドルフとイッパイアッテナ		
作者名	斉藤洋		

学年			科	寸感文
クラス	2年	Ma	この本では、どのように生活を過ごせば時間を有意義に使えるかが述べられています。例えば、分からないことは何でも試行錯誤をしないで知識のある人に助けを求めたり、どんなときでも、与えられた時間の中で、最大の価値をつくるといったりなどです。この本を読んでから時間をより多く作り、その時間をより良く充実させる方法をたくさん学んだのでこれからの生活に役立てていきたいと思いました。	
氏名	* * * *			
書名	なまけものひろゆきの時間術			
作者名	ひろゆき			

学年			科	寸感文
クラス	2年		Mb	最初何の話をしているのだろうと全く分からず星座の占いのよう な話で始まり現代でよくあるごく普通の家族の話が始まりま す。星の占いのことと星座術にはあなたの本当の願いが分かる というものであなたのなかみ心に寄りそう珈琲店です。順調な家 庭でも苦悩の一つや二つはあると思いますその小さなきっかけを食 事正座術で教えてくれるとても温かい話です。小説嫌いの僕でさ え短くとても面白い小説でしたぜひ読んでみてください。
氏名	* * * *			
書名	満月珈琲店の星詠み			
作者名	望月麻衣			

学年			科	寸感文
クラス	2年		Mb	私はこの本のタイトルのわかりやすさと、それでいて物語の展開の想像の難しさから興味を持ち読むことを決めた。そしてこの本を読み私は現代社会特有のSNS等を利用した誰もが自由に顔を隠して発言できる事の恐さと、その大きさ、そしてそれに抗うことの大変さを感じた。SNSというツールはとても便利であるが、自分の発言が自分の意図しない人の心にダメージを与えてしまうこともあると感じた。
氏名	* * * *			
書名	15歳のテロリスト			
作者名	松村涼哉			

学年 科			寸感文
クラス	2年	E	今回私は、三匹のおっさんという本を読みました。この本は、三人のおじさん達が協力して自分達の住んでいる地域で起こっている問題を解決していくというものでした。三人の中で一人仕事を退職した人がおり、その人は、剣道を特技としてもっており、何かに活かそうとして問題解決を始めていました。自分は、このおじさんのように年をとってからも自分に何かできないかという考えをもち、さらに、特技を作っていきたいと思った。
氏名	* * * *		
書名	三匹のおっさん		
作者名	有川浩著		

学年			科	寸感文
クラス	2年	E		主人公のよだかは醜い鳥として、ほかの鳥から嫌われており、強い鷹からは名前を勝手に使うと言われてしまいます。よだかは自分の運命を悲しく思い遠くへ行こうと思います。空へ向かって飛び、羽が凍りつくほど高くまで来たとき、力尽きます。気がつくと自分の体は青く美しい光となり、静かに燃えていました。そして今でも美しく燃えているという作品で、よだかの心情の変化が一コマコマ細かく描写されていて面白いので是非。
氏名	* * * *			
書名	よだかの星			
作者名	宮沢賢治			

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ei	この本は、走行中のトラックの脱輪事故により、主婦が亡くなる事故が発生し、整備不良を疑われた運送会社社長の赤松を中心に大企業のリコール隠しに戦いを挑むという本だ。 私はこの本を読んで、赤松社長の困難に直面しても何度でも立ち向かうという不屈の精神に心を打たれた。大企業の中に潜む悪に立ち向かい次から次へと降りかかる困難に挫けずに挑む赤松社長の姿はこれから職に就く私たちにとって良い刺激になると考える。
氏名	* * * *		
書名	空飛ぶタイヤ		
作者名	池井戸潤		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ei	
氏名	* * * *		
書名	夏の庭		
作者名	湯本香樹実		

小学生最後の夏休み、主人公たちは「おじいさん」との交流を通じて、「死」について考える。
合宿帰りに少年たちが土産話を用意していた矢先、突然老人の死が訪れる。衝撃的な展開に、思わず胸が締め付けられた。
事故、病気、戦争、人に訪れる「死」は平等ではない。だからこそ大事なものは、後悔しないよう毅然と人生を謳歌することだと、改めて感じさせられた。

学年		科	寸感文
クラス	2年	R	この話では体が完全にシンメトリーな男土山章平に露伴がシンメトリーの部屋に閉じ込められてしまう。この部屋は非対称を嫌うため侵入した人間は最終的にアジの開きのような死体にされてしまうのだ。そんな大ピンチをどうにか切り抜けようとする姿が面白かった。露伴は作中屈指の頭の良さであるが今回ばかりは打開できないと思った。しかし唯一思いついた打開策は本当に天才的で読者が誰も考えられないような方法だった。この不気味かつ謎めいた景色に良い緊張感があり読んでいて飽きなかった。
氏名	* * * *		
書名	岸辺露伴は動かない（シンメトリールーム）		
作者名	北國ばらっど		

学年		科	寸感文
クラス	2年	R	「狸さん可哀想ね」と太宰の娘は言った。確かに兎の仕打は執拗すぎるところがある。兎がこんなことをするのは、兎は純粋な少女であり、彼女に恋する野蛮な狸が鬱陶しかったからではないかと太宰は考えた。この兎や狸は現代に生きる我々の中にも住んでいるのではないかと。自分の価値観を他人に塗りたくったり、自分の愚行に気づかず恋に溺れたつななんていうのはこの昔話と変わらない。互いに節度を守り、めでたしめでたしするべきだ。
氏名	* * * *		
書名	お伽草子より「かちかち山」		
作者名	太宰治		

学年 科			寸感文
クラス	3年	C	私が選んだ本は夏目漱石の「こころ」です。内容は国語の授業で初めて知りましたが、改めて単行本を読んでもと、授業で味わったものとはまた違う感動を覚えました。この作品は、まず「私」と「先生」との出会いから始まります。前半では、「先生」という人物自体が多くの謎に包まれていました。その謎が解明されて行く中私は、人間の弱さ、もろさを感じました。人物の「こころ」の読み取りが重要な作品だと思いました。
氏名	* * * *		
書名	こころ		
作者名	夏目漱石		

学年			科	寸感文
クラス	3年	C		物語が進んでいくにつれ、平仮名の「音」が消えてゆく実験的な作品だ。例えば、最初に「あ」の音が消えるが、「アイス」という言葉が使えなくなり、物語の世界からも存在しなくなってしまう。だんだんと音が消えてゆくにつれて、難しい言い回しや遠回しな表現が増え、読者に想像させるような作品だと思った。様々な視点から読むことができ、読者がもう一度読んでみたいと思える作品だと感じた。
氏名	* * * *			
書名	残像に口紅を			
作者名	筒井康隆			

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	この本に出会って人生をもっと楽しもうと思うようになりました。どんな時もポジティブ思考で、青山テルマさんがそのまま話しかけてくるような文章でとても元気がもらえます。生きていると辛いことや苦しいこと、不公平だなと思うことや自信をなくす場面もたくさんあるが、生まれてきたことがご褒美なんだから笑っていないともったいない。という彼女の前向きな世界観に引き込まれていきました。
氏名	* * * *		
書名	人生ブルドーザー		
作者名	青山テルマ		

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	いい仕事ってなんだろう。そもそもいい仕事なんてあるのだろうかとか私は三年生になって考える機会が多くなりました。この本の中で「仕事は愉快に上機嫌に！」という言葉があります。楽しんで物事を取り組もうとする姿勢は仕事だけでなく人生を豊かにすることができると思いました。この言葉を胸に刻み、いつか「いい仕事」をしていると堂々と言えるような大人になりたいです。
氏名	* * * *		
書名	広告の会社、作りました		
作者名	中村航		

学年		科	寸感文
クラス	3年	A	先生とは、人生で誰もが関わったことのある存在であろり自分自身を左右する存在でもある。この本は、そんな先生について書かれている。私は、この本を読んで気になった言葉がある。それは「才能か努力か」という言葉である。才能があっても、努力しないと成果をあげることができない。才能がなくても努力を継続すれば大きな成果を生み出せすことができる。この本を読んで私は、努力を継続することの大切さを改めて実感した。
氏名	* * * *		
書名	せんせい。		
作者名	重松清		

学年		科	寸感文
クラス	3年	A	私がこの本を知ったのは、親からの勧めがきっかけです。不漁続きだったサンチャゴという老人が、カジキと3日間の死闘を繰り上げ捕まえます。しかし、港へ戻る途中カジキに集まった鯨によってカジキを失ってしまいます。私は、逆境に負けず得た物が、一つの事で無になってしまうという人生の波を表していると感じました。また、この先目的を達成するために、多くの試練が降りかかっても自分を信じて成し遂げる大切さを感じました。
氏名	*****		
書名	老人と海		
作者名	アーネスト・ヘミングウェイ		

学年 科			寸感文
クラス	3年	P	私は、この本を読んで当たり前の日々の感謝し毎日を大切に生きようと思いました。この作品のヒロインは膵臓に病気があり余命が分かっている高校生です。そのため、やりたいことをやりたり普通に咲いている花を感動的に眺めたりする日々を送っていたのにも関わらず思いもよらない出来事で命をなくしてしまったのでとても悲しく思いました。人はいつ死ぬのかは予測できないので一日一日を大切にしていきたいと思いました。
氏名	* * * *		
書名	君の膵臓をたべたい		
作者名	住野よる		

学年			科	寸感文
クラス	3年	P		手紙屋さんの手紙の内容は、今の私にとって耳の痛い話ばかりだった。時に「やるべき事というのは将来の自分が、今の自分にやっておいてほしいこと」という言葉が、印象に残った。今までも、テスト勉強をもっとしておけばよかったと何回も後悔したことがある。そして、今も就職試験の勉強から逃げている自分がいる。逃げる方が絶対後から辛いのをもう知っているから、主人公と一緒に勉強をやるべき事からやりたい事に変えていきたい。
氏名	* * * *			
書名	手紙屋蜚雪篇			
作者名	喜多川泰			

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ma	「ありがたい」という言葉には「感謝すべきことだ」とか「お礼をいうだけの価値がある」という意味で使われています。しかしこの言葉のもとの意味は「そうあることがむずかしい」という意味だということを初めて知りました。僕は周りの人に支えてもらいながら生きています。そのため感謝を伝える機会がたくさんあります。その際には、「これはあたりまえにあることではない」という気持ちを忘れずに感謝を伝えたいと思います。
氏名	* * * *		
書名	君たちはどう生きるか		
作者名	吉野源三郎		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ma	二十代半ばから後半くらいにピークを向かえると言われている将棋界において五十一歳になった今も最前線で活躍する羽生善治九段。その強さの秘訣をこの本から読み解くことが出来た。それは、成長し続けることだ。成長とは、新しい情報を入れるだけではなく、捨てることも重要だとかかかれている。この「捨てる」という言葉を私は、自分の中の常識を改めて考え直してみることと解釈した。これからは捨てることも出来るようにしたい。
氏名	* * * *		
書名	捨てる力		
作者名	羽生善治		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Mb	『高校という』大きな箱の中で生活し、悩む僕と同年代の若者が出てきてはやっぱり悩んで、騒いで、すれ違っていく。主役というものがあえていないのだが、様々な登場人物を主役にしながら、丁寧に彼らの生き方や想いを表現している。17歳という多感な年齢の進路や友人関係など、今の僕が直面している悩みなど、青春を切り取ったような、大人になって見返したとき、こんなこともあったなと思い出せるような作品だった。
氏名	*****		
書名	桐島、部活やめるってよ		
作者名	朝井リョウ		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Mb	この本のヒロイン桜良は、膵臓に病気があり余命がわかっている高校生です。私はこの本を読み『生きること』について深く考えさせられました。 桜良は最後亡くなってしまいます。膵臓の病気ではなく、通り魔に殺されてしまったためです。でも桜良は最後まで自分らしく、強く生き抜いたと私は思っています。桜良はとても明るく、自分らしさを忘れないとても素敵な人だと思っていました。私も自分らしく強く生きたいと思いました。
氏名	*****		
書名	君の膵臓をたべたい		
作者名	住野よる		

学年			科	寸感文
クラス	3年	E		触れない方が互いの関係を良好に保てる話題というものがある。それに対して問うべきか否か。二人の男の視点から書かれているこの作品は、先に書いたような部分での一進一退をくり返す。非常にもどかしさを感じる。何故私が用紙の半分を使って決して良くはない第一印象を書いたのか。それは私が、七つある章のうち四つ目までしか読んでいないからだ。ミステリーは結末まで読まないとその本の良さは伝わらないのだ。
氏名	* * * *			
書名	罪の声			
作者名	塩田武士			

学年			科	寸感文
クラス	3年	E		一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれる存在のツナグ。もし彼が本当にいるのなら、私は祖母に会いたい。ツナグという本を読み、想いを伝えることの大切さを知った。想いは伝えなければ伝わらない。そして、伝える環境が突然なくなることもある。これらのことを登場人物達が教えてくれた。高校を卒業したら会えなくなる人もいると思う。今という時間を大切に、相手に想いを伝えたい。後悔しないために。
氏名	* * * *			
書名	ツナグ			
作者名	辻村深月			

学年 科			寸感文
クラス	3年	Ei	私はこの本から物理現象と数式の関係性と面白さ、言語や数式への姿勢が変わった。 これまで数式は物理現象を表現する手段でしかないと感じていた。しかし、ブラックホールは元々、数式の解によって考えられた架空上の存在であったことを知り、数式から学べることもあるのだと感じた。 数式や言語を単なるツールだとは考えないで、そこからなにか学べるものがあるか。と模索する姿勢を大切にしたいと感じた。
氏名	* * * *		
書名	宇宙は数式でできている		
作者名	須藤 靖		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ei	私達の生活の中で情報技術は切り離せない存在になりつつあります。そんな情報技術の核ともなるアルゴリズムと我々人間はどう接すれば良いのかと考えさせられる本となっており様々な分野でアルゴリズムがどう使われ、考えられているのかが客観的に見えてきます。私も日常的に便利だからとアルゴリズムの導き出した結論を鵜呑みにしていた節がありました。本書を読んだことで人間、また自分自身の決断や思考の重要性に気づきました。
氏名	* * * *		
書名	アルゴリズムの時代		
作者名	ハンナ・フライ		

学年		科	寸感文
クラス	3年	R	一五七八年、信長に謀反した荒木村重は籠城、説得にきた織田家臣の黒田官兵衛を捕らえ、土牢に幽閉します。以降村重は、場内で起こる不可解な事件を官兵衛に諮りつつ解決します。一方官兵衛は、牢の中から言葉巧みに村重を誘導し、復讐を果たそうとします。 兵の士気を保つために事件を解決する必要がある村重と、村重の名を貶めようとする官兵衛の関係が絶妙で、官兵衛の聡明さ、復讐のための遠大な計画には鳥肌が立ちました。
氏名	*****		
書名	黒牢城		
作者名	米澤穂信		

学年		科	寸感文
クラス	3年	R	自己目的化という言葉があります。本来は手段であるべきものが目的とすり替わることです。独ソ戦で親を失った女性狙撃手たちにイリーナ教官は最後の訓練として、何のために戦うかと目的を問います。狙撃は少女たちの手段ですが、戦果に目がくらみ自己目的して戦死する人を多く見てきたが故の質問だったのだと思います。現実で自己目的己が倒錯しないためにも、しっかりと目的をもって生活していきたいなと思いました。
氏名	*****		
書名	同志少女よ、敵を撃て		
作者名	逢坂冬馬		